

**開催報告！！ (2012. 8. 9-10)**

**2011 年東日本大震災 調査報告会および現地視察会**  
**「地震で山の斜面はどうなったか？」**  
**—東北地方太平洋沖地震による崩壊・地すべり斜面の発生実態—**

**【本会の趣旨】**

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災では多くの人命が失われ、東北地方から北関東、そして新潟・長野県境域を中心に未曾有の甚大な被害をもたらした。これらの被害の中心は、津波によるものであったが、宮城県や福島県から栃木県の内陸部では、多くの斜面災害も発生し、これらでも多くの人命が失われた。

このため社団法人日本地すべり学会では、震災直後からその被害の実態把握を目的に、国土交通省国土技術政策総合研究所から受託した河川砂防技術研究開発課題「地震による斜面変動の実態把握と特徴の類型化」において調査を実施してきた。

この成果を踏まえ、本結果の報告と本研究を広く地域に活用を図って頂くことを目的として平成 24 年 8 月 10 日・11 日の両日、日本大学工学部キャンパス（郡山市）にて、本調査報告会および現地視察会を実施した。

**【主催】**

(社)日本地すべり学会(東日本大震災受託研究グループ)・東北支部 ・ 関東支部

**【後援】**

国土交通省国土技術政策総合研究所・日本大学工学部

**【開催日時】**

- ・調査報告会 平成 24 年 8 月 9 日(木) 13:30～17:00 日本大学工学部 (福島県郡山市)
- ・現地視察会 〃 8 月 10 日(金) 8:30～16:00 白河・いわき市内の計 2 箇所

**● 8 月 9 日 調査報告会 (参加者 83 名)**

- ・日本大学工学部 62 号館「ハット NE」3 階, AV 講義室  
〒963-8642 福島県郡山市田村町徳定字中河原 1
- ・発表者 檜垣大助氏、梅村順氏、千葉則行氏、武士俊也氏

**-概要-**

最初に、東北支部千葉支部長から報告会の趣旨説明があり、ついで日本大学工学部の出村工学部長のご挨拶をいただいた。その後、発表者から各自約 30-40 分の発表があり、最後の 1 時間では総合討論が行われた。総合討論では葉ノ木平などのような高速地すべりについての課題、地震地すべりの発生場の特徴など、さまざまな視点から活発な意見が交換された。



日本大学工学部キャンパス 62 号館「ハット NE」



総合討論

## ● 8月10日 現地視察会 (参加者 30名)

- ・ 視察現場： 葉ノ木平地すべり(白河市)、上釜戸地すべり(いわき市)
- ・ 集合場所： 東北本線・郡山駅西口 観光バス出発プール 8:30 集合
- ・ 移動コース (貸切バス)：  
郡山駅(集合 8:30、出発 9:00)--->葉ノ木平(到着 10:00) --->上釜戸(到着 13:30)  
--->郡山駅(到着 16:00)

### -概要-

まず白河市の六反山丘陵上部で発生した葉ノ木平地すべり地を視察した。当地区は 3/11 の地震の際、遷急線付近の火山灰質ローム層が幅 100m、延長 130m にわたって一気に滑動(高速地すべり)したもので、死者 13 名、家屋全壊 10 戸におよぶ甚大な被害が発生したところである。テフラは何枚かあり硬質テフラ (Sr9)と軟弱層 (Sr10)との境界付近で、流れ盤となっているところで発生しているのが特徴的である。

なお、この葉ノ木平から上釜戸へいたる間で2箇所の視察があった。最初は貝屋地区の崩壊、次に才鉢地区の 4/11 地震で生じた活断層(正断層)の露頭現場である。

最後は、いわき石川線の上釜戸地すべりに場所を移した。当地区は 4/11 の最大震度 6 弱におよぶ余震にともない発生したもので、路面は地すべりのため約 300mにわたり崩土に埋塞している。もともと地すべりであった場所でアンカー工が施工されたが、今回の地すべりで多くのアンカーが破断していた。地質は第三紀南白土層のシルト岩、凝灰質砂岩・シルト岩互層、凝灰岩の分布するところで、南白土層シルト岩中の流盤状低角度層面断層上で発生している。



白河市内 葉ノ木平



いわき市内 貝屋



いわき市内 才鉢



いわき市内 上釜戸